

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2014.022.kani=true&Ji.yosyoCd=0393000070-00&PrefCd=03&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から5年が経過し地域の人達にも事業所の存在を知って頂けた事と思います。これからは、ますます積極的に地域と関わりを持っていきたいと思っています。具体的には、近所の方々が気軽に立寄りやすいように『挨拶』『行事の参加』などコミュニケーションを図っていききたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道や三陸鉄道の駅に近接し、交通の要衝地にあり、周辺は港湾整備や震災に対応した都市計画による住宅や商店が整備され、更に防災センター、町役場の支所、幼稚園が設置されるなど、生活環境は整っている。台風の災害時には、高齢者などの被害者を受け入れているほか、国道の花壇を整備するなど、地域との連携を図り、地域活動の一役を担っている。事業所の運営にあたっては、同一敷地内の小規模介護施設や高齢者住宅との共同事業などを実施しているほか、運営推進会議の指示事項や職員の提案を取り入れ、地域への情報提供や畑での野菜栽培などを行なっている。また、利用者や家族の意向を把握し、希望に沿うように対応しているほか、利用者の屋外での自由な行動を確保するため、好天日に、事業所周辺の散策、幼稚園の見学、菜園、畑の作業、花壇の整備、事業所周辺の草取りなど、外出の機会創出に積極的に取り組んでいる。さらに、職員の能力向上のため、研修等の受講希望を取り、年間計画で研修会や勉強会、町の会議に派遣するほか、資格取得への支援を行い、職員の就業意欲の向上と利用者へのサービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に止まる所に掲示して実践に務めている。	理念は、法人の定めたものを事業所内に掲示するほか、独自に事業所のスローガンや重点事項を定め、月1回の職員会議で徹底している。また、毎日の引継ぎ、連絡の際に、再確認し、利用者へのサービス向上のため、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの参加をするとともに、隣接している施設と協力し『夏祭り』の開催もしている。	地域の町内会に加入し、各種情報を得ているほか、漁協主催の鮭祭りなどへ参加している。また、小規模介護施設と共催で夕涼み会を開催し、地域住民との交流を行なっている。さらに、幼稚園児の訪問や、高校生の施設体験研修などにも協力し、事業所での職員の採用にもつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者と一緒に買い物や散歩・草むしり等を行っています。職員の対応方法を地域の方々実際に見ていると思う。 ・入所の相談の際に認知症の事や対応方法等を助言する事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に書記として職員も参加し記録に残しています。出た意見は回覧し、ミーティングでも話し合い、よりよくするように務める。	運営推進会議の委員の提案を受けて、国道の空き花壇を事業所で植生、管理しているほか、災害視察、慰問の宮様の出迎えなど、地域住民と共に参加し、地域との連携を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議やケア会議を通じて協力関係を築いている。 ・災害時はもちろん大風・大雨・停電の時も安否確認の電話のやり取りをしている。	町開催のケア会議に参加し、各種情報を得ているほか、行政防災等連絡端末を設置し、適時的確な情報を得ている。特に、インフルエンザの感染予防接種種などを実施している。また、介護認定の変更や制度利用の方の手続きなど、家族の依頼を受けて、町に出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内のミーティングで確認し合っている。また、セミナーの開催が有れば参加している。 ・現在身体拘束を必要とする利用者はいない。	身体拘束については、職員会議で注意事項などを再確認し、職員に徹底している。特に、スピーチロックなど、親しい仲にも思いやりの気持ちを大切に接することとしている。入り口は夜間だけ施錠し、外出は自由に行なっているが、職員が立ち会うなど、安全の確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティングで確認し合っている。また、セミナーの開催が有れば参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備し学ぶことに努めている。日常生活自立支援制度の利用者もいらっしゃるため制度に触れる機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や変更が有る時はその都度説明をしている。簡単な言葉で説明を加える事で理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の中から聞き出し反映するように努めている。また、外部評価でのアンケートで出た家族意見を反映するように努めている。	利用者の希望については、日々の生活の中で捉えているほか、利用者の受診のために来訪した際に、家族の意向を聞き取り、利用者へのサービスの提供に反映させている。遠隔地の家族には、広報誌に手紙を同封するほか、電話で照会し、回答を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング内で聞く機会を設けている。軽微なことについては常に意見を聞くように努めている。連絡ノートを作り決まった事や意見を気軽に記載出来るようにしている。	職場で申し出しやすい雰囲気醸成し、会議の場や日常の業務の中で忌憚のない職員の提案や意見を得て、職員間で共有し、実現化に取り組んでいる。更に、広報、行事、環境、防災の2~3人による担当グループを決め、利用者へのサービスの充実に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の助成制度を設けている。資格取得時は『祝い金』や『賃金』という形で各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受けるとともに、ミーティング内で講師として勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『グループホーム協会』の全国・沿岸に加入し他施設の取り組みなどを参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人に面会し困り事や要望を聞いてサービスに反映するよう努めている。導入後も、細かいことに耳を傾け安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に本人・家族・担当ケアマネより本人の状況や困り事を聞いてサービスに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時や決定時に、本人・家族・担当ケアマネから意見を聞き必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話し相手・買い物・外出などを通じコミュニケーションを取り共同生活の関係を保っている。ズボンの裾上げや雑巾付け・繕いもの・野菜の下ごしらえの役割を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報・お便りを通じてホームの様子をお知らせするなど、ご家族との連絡を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との電話のやり取りや面会で関係が途切れないよう支援している。年に1回、住み慣れや場所へのドライブを実施している(台風のため計画のみ)	利用者の馴染みの場所の訪問は、台風災害のため、本年は実施していないが、地域の神社のお祭りなどに参加している。お盆などで帰省する家族との外出や2月ごとに定期訪問する家族と出かける利用者もいる。また、町の無料の防災情報端末を使用し、家族と連絡を取っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レク活動やドライブなど実施し、お互いが交流を通じて支え合うよう支援している。 ・定期的に食席を移動し孤立しないよう目配りに努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はお会いする機会がほとんどなくなるが、偶然お会いした時や相談に入らした際はフォロー・助言に務める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望に傾聴するように努めている。希望を発しない方については表情などを参考にし、ミーティングで話し合っている。	日々の生活の中で、会話や仕草などで意向を把握し、利用者の希望に沿うように対応している。また、連絡ノートなどにより、職員間で情報を共有し、それぞれの利用者に向けた対応をしている。なお、畑作業の希望者には、畑に案内しているほか、他の利用者も収穫時に参加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や行動を見て、個々の生活状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や不安な面などは、コミュニケーションや職員間で情報交換する中で把握出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや朝礼の際に接し方等を職員間で話し合う。(ご家族と話をすることは多くはありませんが、面会の際に得た情報などを参考にしている)	職員による毎日の連絡や月1回のミーティングで、それぞれの利用者の状況を確認するほか、大幅な計画変更の場合は、原案の作成後に、再度、職員に意見を聞いている。医師や看護師の指示を得ているほか、家族の希望を聞き取り、計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌に記載し、職員間で共有している。その情報はミーティング内で話し合い実践や計画に生かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合い可能な限り柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園へ訪問したり、子供たちの散歩途中に寄ってくれる。地域イベントの見学や買い物等楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力・連携取りながら、かかりつけ医の診察を受けられるよう支援している。	利用者のかかりつけ医と、協力医が同一の医療機関である。循環器科については、かかりつけ医で対応している利用者もいる。歯科は、町の巡回診療医が毎週地域に来るので、その際に受診している。原則、受診は、家族同伴としているが、家族の要望により職員が対応する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や心身の変化を伝え適切な診察を受けられるように支援している。また、看護師の記録は職員も目を通してしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院情報提供書を提出している。入院時はもちろん入院中も定期的に面会し必要な場合は情報交換をする事も有る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に終末期の方針について説明している。必要になったら、早い段階で話し合う予定だが、まだその場面に遭遇していない。	重度化した場合や看取りについては、入居時に家族に説明し、同意書を得ている。また、緊急時や重度化した場合は、医師や看護師の指示を得るほか、改めて家族の意向を把握することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自の知識に任せている状態。今後セミナーなどに参加し実践力の向上に努めたい。(救急救命講習は全員受講・更新済)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署・近隣住民に避難訓練及び協力願い避難訓練・消火訓練を行っている。水害や津波避難の手順書を作り理解している。ドライブや散歩で避難場所の確認は出来ている。	避難訓練は年2回、消防署の立会いのもとに実施している。居室が2階であり、非常階段からの利用者の避難について、消防署から指導があった。緊急の場合は、自主的に近所に居住している職員4名が駆け付け、初動対応することとしている。反射式ストーブ、カセットコンロ、電池、3日以上分の食料を確保している。	避難訓練に、地域の方々による利用者の見守りなどの協力を得られるよう、働きかけるほか、2階の踊り場から、非常階段を使用した迅速、効率的な避難方法について、消防署の指導に基づく実践訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの方法を職員間で意見交換などしている。利用者本人の言葉に耳を傾けるより良い対応を心掛けている。	笑顔での利用者への対応を大切に、サービスを提供している。なお、個別の利用者の状況を日々の生活の中で把握し、言葉遣いや案内、誘導を行っている。また、広報用のパンフレットへの写真の掲載は、家族の意向に沿い、同意者のみとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾け、思いを発信できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制を理由に職員都合を優先せざるを得ない時がある。無理をさせたり急がせない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じ衣換えしている。ご本人の希望を伺いながら、定期的に美容院や床屋を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、利用者のリクエストに応じた献立をつくっている。一緒にできる下ごしらえやお盆ふきなどを手伝っていただいている。	外食の希望はあるが、今まで実現化はしていない。今年は回転すしを計画している。食材は本部から配送されるが、畑で収穫した野菜を活用しているほか、利用者の家族などから提供された、生わかめ、うに、秋刀魚、マツタケなど、季節の旬のものを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取記録を取り、不足の時は味や好みの飲み物を提供している。 ・食事は食べれる量を配膳し完食出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを実施。定期的に入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方へのトイレ誘導を実施。ミーティング等で衛生用品の選択や方法を話し合い、おむつにしない工夫をしている。	排泄の自立を支援するため、紙パンツを利用し、朝に熱いタオルを準備し清拭するなど、おむつにしない取り組みをしている。夜間にポータブルトイレを使用する利用者は4～5人おり、貸し出しを行っている。それぞれの排泄のパターンを把握するほか、失敗の方には、それとなく誘導し、入浴で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を確認し、水分や運動で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングで入浴の声掛けをしている。だいたい曜日を決めているが、変更等は柔軟に対応出来ている。	週2回の入浴を、午後2時から4時まで実施しているが、希望者には、曜日の変更や回数を増やし対応している。季節により、菖蒲、ゆず湯のほか、入浴剤を使用する場合もある。入浴拒否の方はいないが、同性入浴介助を希望する場合は、配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は時に決めていない。寝具を整え休息を自由に取れるようにしている。夜間に響かないように休息が長時間の時は声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の内容が書かれた紙をファイルしいつでも読めるようにしている。薬の内容が変更になった時は特に変化に機を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や針仕事など昔の経験を生かした役割を持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩・畑仕事等屋外に出る工夫をしている、また、玄関先にベンチを置いていつでも日光浴出来るようにしている。さくらんぼ狩りや紅葉狩り等のドライブ計画している。	事業所内に、こもりっきりの生活とならないように、日常的な外出に力を入れ、午前中3名ごとに、歩行器などを使用しながら、職員が対応し、近くの散策、幼稚園の見学などを実施している。天候により午後になる場合もある。そのほか、菜園、畑、花壇での作業や季節の花見、お祭り、花火見学、観光地などへのドライブを行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、自分でお金を使えるように少額を管理している。大きなお金や自己管理できない方の小遣いは、各自の金庫に保管しご本人にも保管状況や買い物が出る事を伝えてある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望が有る時は気軽に電話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持、寝具を整える他居室に温湿度計を設置。季節感のある壁面飾りを利用者と一緒につけて居心地の良い環境作りに努めている。	1階は、広々としたロビーに食食用テーブル、ソファが設置され、それぞれ希望の場所で、くつろいでいる。温度はエアコンで管理され、夏場は扇風機を利用する場合もある。部屋はやわらかい光を取り入れ、クリーム色の2色で温かみがあり、快適な環境となっている。利用者の作品、写真、観葉植物が配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は各自の個室や玄関先のベンチなど好きな所でゆっくり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、位牌を置く、プレゼントの鉢植えを育てるなど、本人に合わせた空間作りをしている。	2階は、居室となっており、クローゼット、チェストが整備され、ベッド、寝具は持ち込みとなっている。希望者には、事業所のベッド、ポータブルトイレを貸与している。ナースコールを設置し、就寝時等に対応している。それぞれの個性により、仏壇、家族の写真、テレビなどが持ち込まれ、エアコンでの温度管理、良好な環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせて一人ひとりの『出来る事』『わかる事』を見つけながら声掛けしている。		